表−1 日 程 表 (2)

月日(曜)	地名	交通機関	スケジュール
6月17日(木)	トウール 〜 ロワール 〜 (ル・マン) 〜 パリ	専用バス (約360 km)	トウールを出発ローワル峡谷を視察後パリへ <パリ泊>
6月18日(金)	パリ		1日：IAEG事務局表敬訪問 <パリ泊>
6月19日(土)	パリ発 (ドゴール空港)	AF 276	出発まで自由視察 空路帰国の途に(直行便・約11時間45分) <機中泊>
6月20日(日)	東京着 (成田空港)		着後：解散

表−2 ダム諸元

ダム名	国名	河川名	型式	ダム高 (m)	堤頂長 (m)	堤体積 (千 m^3)	貯水量 (千 m^3)	目的	竣工年
オリアナ	スペイン	エブロ川支川 セグレ川	重力式コンクリート (アーチ形式)	102	275	?	101,100	FPA	1959
カネレス	〃	エブロ川支川 ノゲラ・リバゴルサナ川	アーチ	151	203	333	678,000	P	1962
メキネンサ	〃	エブロ川	重力式コンクリート	77.4	451	1,100	1 530,000	P	1966
ペーニャ	〃	エブロ川支川 ガレゴ川	重力式コンクリート (アーチ形式)	(28) 59	(70) 112	(?) 33	25,000	A	1913
イエサ	〃	エブロ川支川 アラゴン川	重力式コンクリート	77	398	480	471,000	PAN	1960
エグソン	フランス	ロアール川支川 クルーズ川	重力式コンクリート (アーチ形式)	60	300	220	2,200	P	1926

(1) マルパッセダム(フランス)

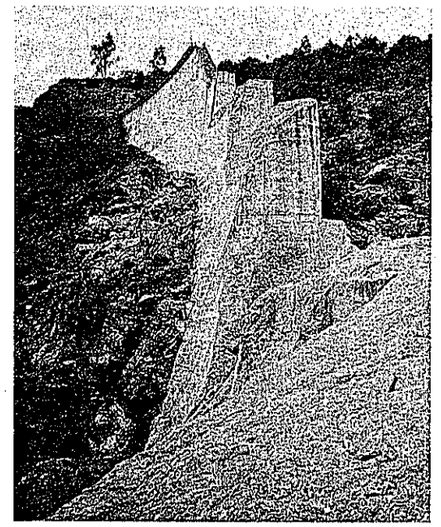
このダムは，1959年に基礎岩盤の破壊が原因でダムが決壊し，地中海に至る約11 kmの河川添いに死者421人を始めとする多大な被害を与えたことで有名なダムである。このダムの事故を契機として，それまでダム本体の応力のみに着目されていた設計技術は一転して基礎岩盤の安定性を重視した設計へと大きく変換した。

破壊前のダムは堤高61 mの薄肉コンクリートアーチダムで，貯水容量は4,930万 m^3 であった。基盤岩は片麻岩であるが，左岸アバットメントが広い面積にわたって連続した弱い物質のシーム沿いに滑ったため破壊を起こしたといわれている。現地は破壊の当時そのままに保存されていて，ダムサイト下流には案内板が設置されている(写真−1)。右岸部には破壊された堤体の一部が残っているが(写真−2, 3)左岸部は大半が流失し高標高部にスラストブロックの一部が残されているのみで弱層が明確に確認できる(写真−4)。右岸アバットメント部に残っている堤体コンクリートの上流側の基礎岩盤に開口亀裂があり(写真−5)，右岸の端部を中心として堤体が回転したように見えた。

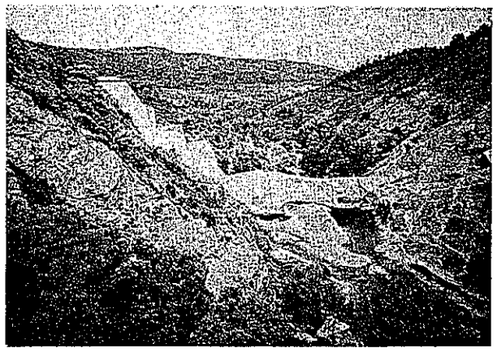
(2) オリアナダム(スペイン)

オリアナダムは，エブロ川右支川セグレ川に多目的ダムとして1959年に建設された重力式コンクリートダム(アーチ形式)で，関税のかからないかの有名なアンドラ公国の南南西約50 kmに位置する。ダムサイト周辺は，地質図上エオシーンの地層で，石灰岩がいたるところに露頭した急

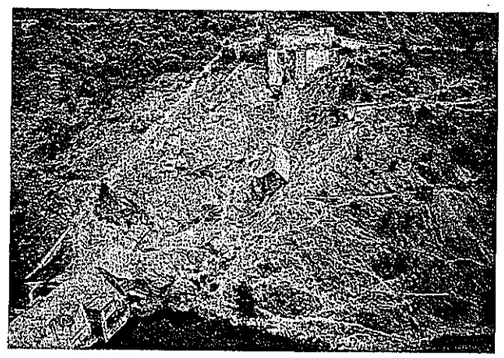
写真−1 マルパッセダム案内板



写真−3 マルパッセダム右岸部に残った堤体コンクリートの一部

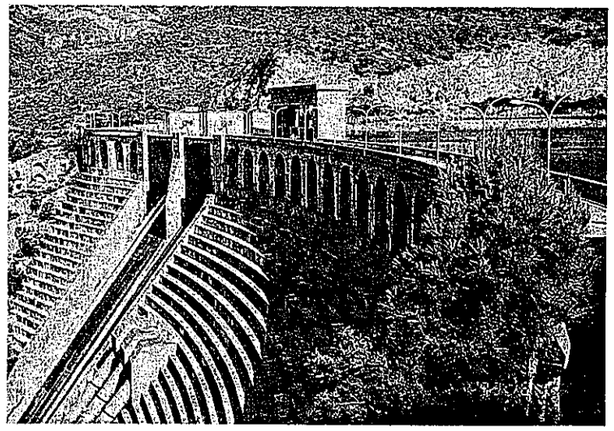


写真−2 マルパッセダム全景



写真−4 マルパッセダム左岸部全景

写真−5 マルパッセダム右岸部上流の基礎岩盤の亀裂



写真−6 オリアナダム全景